

## 第16回環境教育・環境学習ネットワーク会議 会議要旨案

日時：平成27年2月10日（火） 15:00～17:00

場所：市役所301会議室

出席委員：高橋弘二座長、鈴木副座長、宇佐美構成員、内船構成員、太田構成員、桐谷構成員、小谷構成員、高橋直人構成員、高橋正明構成員、奈良谷構成員、野崎構成員（11名）

事務局：環境政策部環境企画課（小澤課長、笠原主査、高橋、山中）

傍聴：なし

### ◆ 会議の流れ

#### 1 開会

#### 2 報告

（1）「よこすか環境フォーラム2015」の実施結果について

（2）平成27年度教員向け環境学習講座について

#### 3 議題

（1）横須賀市環境教育・環境学習マスタープランの見直しについて

#### 4 その他

事務連絡

### ◆ 報告1 「よこすか環境フォーラム2015」の実施結果について

〔要旨〕

平成27年1月31日（土）午後、「よこすか環境フォーラム2015」をヨコスカ・ベイサイド・ポケットで開催した。環境ポスターコンクール等の表彰の他、市内小学校等の活動発表が行われた。後半のステージイベントはJAXAのタウンミーティングを行い、会場から活発な質疑があった。来場者数は310名。

### 高橋座長

ご意見、質問がありましたらお願いします。

私も参加したが、我々が子どもの頃は口頭で説明するのが発表だったが、今の子供たちは全身を使って、パフォーマンスを行っている。やっている子どもたちも楽しんでやっていて、時代の変化を感じた。

その他参加された方、感想がありましたらお願いします。

### 内船構成員

私も参加した。スカリンのメッセージボードに子どもたちが各々、付箋に取組などを書

いて貼るということをやっていた。貼りつけられたメッセージは何らかのかたちでフィードバックするなど、発展はあるのか。

#### **笠原主査（事務局）**

書いていただいたメッセージの発信としては、市が発行している情報紙「ECO通信」で、やったことや特に多かったものなどを載せる。メッセージの内容は、「節電がんばる」、「緑を大切にしよう」などで、事業に吸い上げるようなメッセージはなかった。フィードバックの前に、そういう気持ちに向き合ってもらい、書くことが目的である。フィードバックはなかなか難しいので、他にできることとしては、ホームページでの案内なども考えている。スカリンボードは今後、環境月間や環境啓発イベントで色々な意見をいただきながら使用し、フィードバックの工夫はしていくつもりでいる。

#### **高橋座長**

「ECO通信」に載せることは、色々な人の目に触れていいのではないのか。

#### **鈴木副座長**

参加したのだが、3階から4階に行く階段が、人が多く身動きがとれない状態だった。ポスター撮影などで「我を我を」と急いでいる方がいるので、上りと下りを分けるなどの工夫をして欲しい。

#### **高橋直人構成員**

当日は生涯学習センターで「まなびかんまつり」をやっていたので、合間にフォーラム会場に行き、子どもたちの発表を拝見した。フロア展示の写真を撮り、生涯学習センターで写真を見てもらった。当日1日だけの展示ではもったいないので、生涯学習センターなどで展示ができないかと環境企画課と生涯学習財団に話をもちかけ2月下旬から3月にかけて展示をすることが決まった。せっかく子どもたちが作ったものなので、1日だけで終わるのではなく、長い期間見ていただけたら啓発にもつながると思っている。

#### **高橋座長**

今年はこれまでと違って、市民活動団体のパネルがあまりなかったのだが、そちらも生涯学習センターでやっていただけることになった。よろしく願い致します。

#### **桐谷構成員**

今回初めて参加しました。フロア展示だが、発表者が立ってポスターセッションのように説明するというような形式は今までとられてなかったのか。展示の中にはもっと聞きたいなと思うことがあった。書いてあることだけだと、伝わってこない部分もある。追浜中

学校の展示は、データについてもっと語り合いたいと思った。

#### **小澤課長（事務局）**

展示スペースの見学に来場者が集まるのはステージの休憩中なので、タイミングが難しく、展示団体にはできていない。タイミングが合えば必要かと思う。

#### **高橋座長**

これまでの市民活動団体だと、自分たちの活動を紹介したいので、必ず誰かついていて、来場者とコミュニケーションをとっていた。市民活動団体はそのようなやり方をしている。今回は市民活動団体の展示がなかったの、誰もいなかった。これまでも「あそこで説明しなさい」、「コミュニケーションをとりなさい」というような指導はなかった。自主的に展示団体がどうするか決めていたようだ。

#### **桐谷構成員**

仕事柄、ポスターセッションなどの機会があるのだが、そういうところで話をすることがその後の広がりにもつながったりするので、そういう機会をもし作っていただけなら有難いと思う。

#### **高橋座長**

展示は展示団体がやるので、その時間帯は必ず誰かがいるというような指導をしていくといいと思う。来年の参考にしてください。

#### **野崎構成員**

今年は参加できずに残念だった。フロア展示の追浜中学校科学部だが、中学校の参加は今年初めてだと思うのだが、見る事が出来ずに残念だ。全体の参加者の中に中学生は何人かいたのか。1校でも係わってくると中学生の来場者も増えていいと思うが、どうだったか。

#### **高橋座長**

横須賀市地域水質保全協議会が毎年「恵水」という冊子を発行している。その中に十数年、追浜中学校が行っている鷹取川の水質調査結果が載っている。その関係で水質保全協議会が追浜中学校に声を掛けたのではないかと思う。

#### **野崎構成員**

自主的に参加したいという意思表示があったのではなかったのか。

## 鈴木副座長

私は水質保全協議会の編集委員をしているが、水質保全協議会から追浜中学校に依頼をした。「恵水」にはデータが色々載っているが、中学校として展示する場所がないのでアウトプットする場所として展示した。

## ◆報告2 平成27年度教員向け環境学習講座について

### 〔要旨〕

今年度に引き続き、平成27年度も教育委員会と連携した形で教員向けの環境学習講座を実施する。講座内容は、事前に教育研究所とも相談し、外来生物や生態系を扱ったものとした。昨年の参加者アンケートでも、外来生物や生態系といった内容への要望があり、教育委員会への他の講座とも重複がないため、本テーマを選んだ。

## 高橋座長

これは来年度の予告として捉えていいのか。前回の会議で、この話が出たときに効果的な日にちが話題に出ていたと思うが、教育委員会としてはどうなのか。夏休みの時期か。

## 宇佐美構成員

内容が濃いので、時間を多く取るとなると夏休みがいいと考える。

## 高橋座長

昨年は夏休みの中頃だったが。

## 宇佐美構成員

8月第1週は教育委員会の研修がたくさん開催される。大学から教授を招いたりするので教員が多く申し込みをする。人数を確保したいとなると、第2週のこの時期がいいと思う。

## 高橋座長

なるべく重ならないように調整をとって開催日を決めていただきたい。

## 笠原主査（事務局）

日程については、お盆の時期に開催するのはいかがかという意見があったが、7月後半から8月前半は先生方の既存の研修がたくさん入っているとのことで、夏休み中であればお盆から8月の後半にかけてとなる。8月後半になると新学期の準備があり、お盆は帰省時期と重なってしまうなどの指摘はあったが、他と重ならないようにこの辺りの日程で調

整したいと考えている。

#### 高橋座長

なるべく早く日程が決まった方がいいのではないか。

#### 宇佐美構成員

実際に申し込みが始まるのは7月の始めからになるので、それまでに固まっていればと思う。

#### 野崎構成員

講座内容だが、アライグマやタイワンリスに加えて、フィールドに出るのでしたら植物のトキワツクサを外来生物として取り上げていただけるといいかと思う。動物だけでなく、植物も取り上げてほしい。

#### 笠原主査（事務局）

先生方も色々な情報を知りたいと思うので、お願いする講師に幅広い意味で外来生物を取り上げてもらうように詰めていきたいと思う。

#### ◆議題1 横須賀市環境教育・環境学習マスタープランの見直しについて

##### 【事務局からの説明】

本市の環境教育推進の基本方針である環境教育・環境学習マスタープランの見直しを平成27年度に予定している。これは上位計画である「横須賀市環境基本計画」の中間見直しにあわせて行うものである。

現在の予定では、基本方針や目標などの基幹的な部分に変更せずに、それに盛り込まれている具体的な事業等で情報が古くなっている部分の見直しを行う。本日はマスタープランの基本となる、方針や目標、全体の構成について意見をいただきたい。

#### 高橋座長

本日、議題は一つだが、内容は多岐に渡っている。環境教育推進法を進めるために環境教育促進法が施行され、この改定をマスタープランに反映させなければならない。もう一つはESDの考え方をこの中に盛り込んでいかなければならないということで、マスタープランの見直しが行われる。皆様から質問、ご意見をいただきたい。

#### 高橋正明構成員

基本的なところだが、現行の内容について、資料1 4.見直しの方向性 (1) 基本的

な考え方②では「基本目標、基本方針は、現行の環境基本計画、新たに制定された環境教育促進法の内容にも見合うものであることから、これらの変更は行わない」との表現だが、  
(3) ネットワーク会議における見直しスケジュール ①第16回会議(本日)に「基本目標、基本方針の変更の有無の確認」とある。変更しないことは決まっているが、それを確認することなのか、変更した方がいいという意見があったらそれは反映されるのか。

#### **笠原主査(事務局)**

事務局では、変更は行わないでいいのではないかと考えているという意味で捉えていただきたい。変更を行わないことを決定事項として議論いただくということではない。

#### **高橋座長**

このマスタープランは何部くらい作られて、どのような場所に配られているのか。

#### **笠原主査(事務局)**

300部作り、行政関係や学校に配っています。簡易版のリーフレットも作成された。

#### **高橋座長**

基本になる「基本目標」、「基本方針」は変えずに、というのが事務局の考えだが、いかがですか。

#### **野崎構成員**

基本目標を変更しないというのはいいと思うが、感じたことを聞いていただきたい。基本目標に「・・・地球環境、地域環境にやさしい人づくりを進める」とある。この「やさしい」という言葉がいつ決められたか分からないが、「やさしい」という言葉では物足りない。教育の現場でも、団体としての活動も環境にやさしいということではなく、活動に主眼を置いている。マスタープランを見ると環境を守りいいものにするために「動く」ところまでとなっているので、「やさしい人づくり」では弱いと思う。「行動する」「見本とする」などもう少し積極的な言葉になるといい。

#### **高橋座長**

環境基本計画に相当する言葉があるのか。

#### **小澤課長(事務局)**

環境基本計画の87ページに記載がある。環境基本計画も現在、見直しを行っている。

## 野崎構成員

基本方針の①「自ら行動する」とありますが、そのようなニュアンスが入っていると思います。

## 高橋座長

環境基本計画の目次の後に基本的事項として、「みどりについて」、「ゆたかについて」とあるので「やさしいについて」があるといいのでは。

## 野崎構成員

今日午前中、私が活動しているフィールドに、大楠小学校の6年生が卒業記念で植樹にきてくれた。小学校などに行くと子どもたちは観察をしたり、話を聞くよりも「ぼくたちに出来ることはないですか」、「私たちにできることがあったら一緒にやりたい」と行動することの方に子どもたちは向いていると思う。行動に結びつく言葉だと心強いと思う。

## 高橋座長

「やさしい」を残しても、積極的な表現を何か入れるといいのではないかな。

## 高橋正明構成員

今の野崎さんの話にも関連し、法律改正の中で推進法が促進法になったということで、具体的な実行をより強くしている印象がある。中味を見ると、関連資料2、2（2）改正のイメージ②「地方自治体による推進枠組み」が、「・・・枠組みの具体化」と実行をイメージしているもので、そういうものにするか、具体的内容の中に実行をイメージしたものを取り入れていくか、そういった方向性が大事ではないか。また、法改正の中でかなり環境保全という言葉が出てくるのだが、環境保全という言葉は皆さんどんなイメージなのか。

「保全」という言葉だが、人によって捉え方が異なる。環境保全とはどんな定義付けで考えればいいのか。似たような言葉で「環境保存」や「環境保護」とか色々ある。私が勉強した講習会で「保全」とは、人間が自然を利用する。但し、利用することによって自然を破壊しない。最小限の負荷で環境を利用するのが保全。保存とは利用をせず自然を残すこと。保全というのは利用を念頭に置くが自然を壊さない。例えば漁業でいえば、魚を獲り過ぎない、資源を残すような方向付け。里山でいえば、山を切り崩さないで森林を開発しながら、自然そのものは残す。先程説明のあったESD「持続可能な開発のための教育」と上手く重なる気がする。持続可能というのは、自然を残して継続していく。そういう方向性を考えるための教育というのは環境保全とまさに重なるのではないかな。保全という言葉をもう少し明確にして皆が同じ方向を見て環境に対して考えるというベースラインを作ってそれに関して具体的に行動していくと、より実行する段階で分かりやすいと思う。

### 高橋座長

「保全」という言葉は基本的事項として、環境基本計画に書いてある。「保存」は書いていない。推進法が促進法になったことを捉えて、用語を含めて見直す必要があるかと思う。

### 高橋正明構成員

この「保全」は適切な状態を保つということで、利用という観点は入っていない。

### 鈴木副座長

関連して、昨年 FM ヨコハマで4回に分けて小網代の森を紹介した。その題目が「小網代の森まるごと保全」となっていた。保全して何をするかと言うと、そこを学習の場にして活用している。したがって学習の場につながるのが保全。

### 高橋正明構成員

利用するという捉え方のようだ。

### 鈴木副座長

はい。常時、人が入れないところは整備して、子どもたちの教育の場にする。

### 高橋正明構成員

森は残るけれども教育の場として利用するというイメージか。

少なくともこの中で言葉の定義を明確にしてどういう方向で議論するのかがわかればいいと思います。提起した。

### 高橋座長

保全や保存と言った言葉について、内船構成員、いかがですか。

### 内船構成員

博物館で関係している自然とは、まるごと保存しなければならないという区域もあるが、多くは里山的保全をしている。教育目的で整備をしながら人も入るといった、今仰った保全的なことを博物館でも行っている。

### 高橋座長

私たちが議論するのは環境教育なので、保全というと環境を大事にしようで済むが、それをいかに利用、活用していくかが環境教育だと思う。保全を踏まえた活用という積極的な視点を持って見直しに取り組んでいきたい。



### 高橋正明構成員

なぜ私が「保全」を取り上げたかという、促進法の中で「保全」という言葉がたくさん出てくる。保全を意識した教育の体系を作っていくことがこの議論としていいのかと感じた。「保全」ということは何かということをお皆さんが認識していないと方向を間違ってしまうのではないかと思ひ話をした。

### 高橋座長

今の議論を捉えると、基本目標の「やさしい人づくり」をもう少し突っ込んで積極的な表現に変えた方がいいということですね、野崎構成員。

### 野崎構成員

はい。

### 内船構成員

私はあえてそれに関して異を唱える。ここで話し合われている環境学習ということは、恐らく保全だけではなく、保護とか様々な環境への取組に関して包括的に考えてということだと思ふ。具体的なアクションを起こすかどうかの一手手前で、そのアクションが必要かということまで考える。恐らくそういうところも注意しなければならず、始めから行動ありきで、目標に打ち出すというのは少し違ふのかと思ふ。例えば子どもの例を出しますが、子どもが環境活動をする時にある程度指針、矢印を示してあげるのは大事だと思ふ。ただ、大人の環境問題というのは、様々な利害が対立していて、絶対的にいいものがない世界なのではないかと思ふ。大人の複雑な、でも合意していかなければならないという努力は子どもにはなかなか難しい。だからひと段階落としてあげて、矢印を示してあげるのが、恐らく子ども向けの環境学習のアプローチなのではないかと思ふ。ただ、これを全市的に大人にも向けてやるときには、自分の中で出てくる矢印に気付いてもらうことも含めた取組なので、その辺が「やさしい」という言葉で上手く治まっているのかと思ふ。

### 太田構成員

基本的に子どもたちに環境教育、これをやりなさいというのは動かない。その場でしかやらない。子どもたちを本当に動かすには、身近なことを考えなければならない。ESDも入ってくるが、地球規模で考えて地域で行動する子どもを育てるには非常に難しいことであり、教科の学習に入れるのも難しい。身近な経験を経て、地球規模で考えたときに初めて地元でどう行動していくかというスパイラルがある。「じゃ、すぐにやってみよう」と言っても小学生はやるかもしれないが、中学生はまずやらない。もっと考えさせるような行動、つまり、地球規模で考えたことを元に地域で何ができるかと投げかけてあげないと動かない。小学生は動くと思ふが、やらされている感じはする。その学習をしっかりとやっ

ていくには、時間がかかると思う。いきなり行動するのは小学生には難しいかと思う。継続的に大人になっても行動するには、地球規模で考えた後、自分に何ができると一歩踏み出し行動することが必要だと思うが、これは難しいと思う。表現は今のままでいいかと思う。

#### 桐谷構成員

私も内船構成員と意見が近い。基本目標の言葉はそのままでもいいと思う。落とし込んでいく中で、先程からも出ているように、詳しい解説や、具体的な事業等で実行性のあるような内容に少しずつ変えていけばいいのではないかと。

#### 小谷構成員

同様にこのままでいいのではないかと思う。基本方針などの下位の部分で促進という意味合いを出し、基本目標は包括的なものでいいと考える。

#### 高橋直人構成員

基本目標は少し漠然とした感じがあったとしても、更にその下にいくに従い具体的にしていける方がいいかと思う。

#### 奈良谷構成員

基本目標は、ぼやっとしていてもいいのではないかと。その下で変化をもたらせばいいと思う。ただ、現場の最前線にいる方は、もう少し踏み込んだ表現にしたいだろう。立場によって、思いは異なってくるだろうと感じる。法で表現が変わったので、内容で表現を変えられるようになるかと思う。

#### 高橋座長

皆さんから意見をいただいたが、目標はあまり踏み込まず今回やろうとする点は基本方針に具体的に盛り込む。では、次に基本方針の言葉や内容はいかがですか。

#### 内船構成員

④の実践するための各主体間の「連携・協働」を進めますとあるが、主体間とは環境教育推進法や環境基本計画に書いてあるような事業者、行政、市民団体などの組織間の協働を前提に書かれている印象を受けたが、法令で協働というと組織間の連携をイメージしているのかと思う。しかし、学びというのは個人と個人、人と人のつながりの単位で考えていくものもあるかと思う。例えば市のマスタープランでは、組織間の連携・協働だけではなく、そこでこぼれおちてしまうような、個人としての主体間の協働のフォローはできないだろうかと感じた。④の主体がどのレベルのものかにより違うと思うが。

### 小澤課長（事務局）

マスタープランの11ページに「市民、市民活動団体、事業者、学校、地域、行政などの各主体が連携・協働、あるいは役割分担することによって、効果的、効率的な環境教育・環境学習を進めます」とあり、「市民一人ひとりが主体的に環境保全活動に取り組みます」とあるように、団体ではありますが、実際にやるのは個人個人で、個人が携わってやっていただく意味も含まれている。

### 鈴木副座長

文言の使い分けですが、基本方針②では「あらゆる人」という言い方をしているが、それにあわせて資料1 4.見直しの方向性（1）基本的な考え方④では「市民」と表現している。この使い分けは何か意味があるのか。

### 高橋座長

その内容はマスタープランに対応している。マスタープランの10ページ、「あらゆる人」に対応するのは、「家庭、職場、学校、地域などあらゆる場面での」という言葉で書かれている。

### 小澤課長（事務局）

あらゆる人に家庭、職場、学校、地域とありますが、その中に当然市民も入っているので、表現は分かれています但实际上は同じ意味になる。

### 高橋座長

書かれていることは具体的には同じなので、この用語を検討して欲しい。

### 高橋正明構成員

関連するのですが、資料1 4.見直しの方向性（1）基本的な考え方④に「・・・記載を強化する」とあるが、強化するとなると、基本方針の表現でも強化するような文言にした方がいいのか。または具体的なところで強化をするということなのか。もし強化するならば基本方針の中で強化するようないしは、法改正の促進のイメージに合った言葉に変えていくのか。「進めます」と言うと、皆さん一緒に進みましょうという感じで、促進するならそれを引っ張っていく方向にもっていくといいと思う。見直しの方向性もそういう強化をするならそういう方向性もいいのかなと思う。

### 高橋座長

事務局いかがですか。

### 小澤課長（事務局）

基本方針の部分ではあくまでもその表現で、実践・行動するのはその下で強化していくといいのではと今の段階では思っている。

### 高橋座長

これから進めていく段階で、こういう考え方でいくということですね。

これまでのマスタープランに基づいて実際に実践してきた関連資料4を見た皆さんの印象などございましたらお願いします。

「ごみに関する出前トーク」は23年度以降やっていないのか。

### 小谷構成員

実施している。

### 高橋座長

この表の網掛けになっているのは意味があるのか。

### 笠原主査（事務局）

市の事業全てが網羅されているわけではなく、環境基本計画の年次報告書レベルでの集約になっている。

### 高橋座長

年次報告書にごみトークが載っていないのは問題ではないか。

### 小谷構成員

事業はあるのだが。

### 笠原主査（事務局）

ここに掲載されているのは、関連資料4は環境基本計画81ページの施策に関連するものになる。ごみトークは、84ページの循環型社会に関する項目で取り上げられているため、事業はやっており年次報告書には集計されているが、扱い方が変わった関係で資料4に掲載がない。そういった事業がいくつかある。

### 高橋座長

広い目で見ると環境教育、環境学習として関わるものはここに全て載せた方がいい。事務局から何かありますか。

### 笠原主査（事務局）

大きな入口の部分の目標は、本日で議論、ご意見をいただいた。基本方針の4つの柱の細かい文言などはまだご意見あるかもしれないが、それ以外でマスタープランの表現など、気になるところがあれば、あわせてご意見をいただきたい。目標や、方針に関連した表現、例えば10ページの（2）基本方針で「1）環境に興味・関心を持ち、自らが行動する人づくりを進めます」というところで、「こういった活動もしているのでこういう部分を強調して書いた方がいい」など。また、各主体の取組の方向性は、これから事務局で整理して出ささせていただく予定ですが、「こういった主旨で活動している」などをお話いただき、事務局が作る前に情報をいただければ、それを踏まえながら素案に反映できるかと思う。今のお話よりも掘下がったものでも構わないのでお話いただければと思う。

### 高橋（事務局）

次回の会議で扱う予定だが、17ページ以降の「5各主体における取組の推進」で皆さんの意見をお伺いしたい。現在はこんな活動をしているとか、こういったところが欲しいかなどがあれば、修正をしていきたい。

### 小谷構成員

今、環境教育促進法（の基本方針）を見ているのだが、ここに新法の改正点がだいたい網羅されており、環境保全、意欲の増進なども入っている。しかし、それ以外に農林水産業その他地域における産業調和とか、地域住民の生活安定、地域における環境保全に関する文化歴史の継承、そういったところまで法律が入っている。このような要素が基本方針の中にあまり入っていないような気がするので入っていてもいいかと思う。

### 高橋座長

マスタープランの基本方針に今の内容が該当するところはない。具体的な施策の内容の中に盛り込まれてきているのか、もしないようであれば施策の方だけでいいのか、基本方針にも入れるか。

### 野崎構成員

マスタープランの17ページ（1）市民の取組の推進、具体的な取組行動例を見ると、「地産地消」や「普段の買い物などを通して、グリーン購入を心がける」と、行動例として記載が網羅されているかと思う。17ページから21ページの行動例を見るとかなり広く網羅されている。

### 高橋座長

今日話し合ったこと以外にも意見があったらいつまでに出せばいいのか。

### 笠原主査（事務局）

何か気付いた点がありましたら2月末までに、メールでご意見いただければと思う。ご意見をいただきながら、次の案に反映させていただき次回の会議でご覧いただきたい。また、あまりにも大幅な変更ということがあれば、場合によっては座長のご意見を聞きながら、ご本人にもご意見を聞きながら進めたいと思っている。

### 高橋座長

本日欠席の方にも連絡をお願いします。

### 桐谷構成員

宿題をやるにあたって確認したいのだが、基本計画は2011～2021年までを見据えて、後6年後まで考えてということになっている。2021年に横須賀市の環境はこうありたいという絵はこの中に書いてあるのがよくわからなかったのだが、将来像はあるのか。それに基づいて、このようなことをやっていきますという話なのかと思うのだが、もしそういった像があると具体的に考えやすいと思う。我々企業で中期計画を立てるときにはもう少し具体的に絵をかく。例えば車を何台売るとかシェアを何%にするとか。例えばそれに向けてこういう手を打っていくのが実行計画のようなかたちで落ちていく。これを見ると殆どが方策系の話で、「あれをがんばります」、「推進します」と、それは分かるが、それを行った結果はどうなるのか、どうなっていたいのかがないと、なかなか実行の計画も迫力が出てこないかと思う。せっかく今、実行を強化していく話があったので、ここにもう少し力を入れてはどうかという気がする。いかがでしょうか。

### 小澤課長（事務局）

一番大きな環境像としましては、環境基本計画の20ページにあります「魅力ある環境を守り、育み、未来へとつなぐ持続可能なまち よこすか ～水とみどりにゆたかにふれあえる 住みよいまちをめざして～」。基本計画ではこの環境像を目指している。その後基本目標が1から5まであり、中には指標がありこれだけの数字を達成しますという、具体的なものもある。確かに仰るような、細かい部分まで絵を描くのはなかなか難しく、「横須賀は自然があっというまちだね」と思っていたのが一番いいのかと思う。環境の問題は、車なら何台というように、なかなか具体的な目標を立てにくいと思う。マスタープランも、あくまでも基本計画が目指す環境像が基になっている。

### 高橋正明構成員

一つ質問だが、マスタープランの17ページ以降で例えば「(1) 市民の取組の推進の基本方針における取組の方向性、日常生活の中で環境への負荷を低減する方法を学び、実践

します。」とあるが、この部分の主語は誰になるのか。

#### 笠原主査（事務局）

（１）の主語は市民になる。例えば「（２）市民活動団体の取組の推進」は市民団体、（３）は事業者というような読み方をしていただきたい。

#### 高橋正明構成員

これを作っているのは市民ではないと思うが。

#### 笠原主査（事務局）

ネットワーク会議の皆さんと一緒に進めているということもあるので、問題はないと思われる。この場で是非ご意見をいただきたい。

#### 高橋正明構成員

そのようなイメージになるわけか。推進役、お目付役は必ずしもそこにいなくて、市民は主体性をもってやるという考え方の取組の内容ということか。

#### 小澤課長（事務局）

本文中では「主体」という言い方をしているが、市民や市民活動団体といった各主体が、お互い、主体性をもってやっていただくということである。

#### 野崎構成員

意見だが、関連資料２の４．法改正に伴う見直しの考え方に「現在、横須賀市で環境教育の拠点施設としているのは、リサイクルプラザと自然・人文博物館の２か所である。ただし、新たな拠点施策を整備することは難しいことから、すでにある「場」に「環境教育の機能」をさらに補強していく」とある。市の環境教育の施設であるから、やはりリサイクルプラザと自然・人文博物館になるということは分かるのだが、例えば猿島とか観音崎とか環境教育として活用している場所がある。施設としてはないかもしれないが、環境教育の拠点というか、活用できる場所の数や具体的場所の記載などができるといいと思う。例えば継承の森などもあるし、今私が活動している湘南国際村のめぐりの森は市の持ち物ではなく県の持ち物だが、市民協働の活動団体としては横須賀市民として活動している。実際には学校や市民が活動する場があるので、拠点施策を整備するのは難しいのではなく、もう少し整備できる余裕があるのではないかと思う。

#### 高橋座長

私も同様に感じる。例えば前田川や整備した里山などが入ってもいいかと思う。

#### 野崎構成員

それに関連して一つ質問ですが、関連資料4（4）4 横浜横須賀道路横須賀パーキングを利用した環境学習とあり、これを見ると平成24年度、25年度に出前授業が5回とありますが、現地に職員や団体の方が出前で出掛けている実績か。

#### 小澤課長（事務局）

NEXCO東日本が行っている。その方たちが小学生を集めて現場で行っている。

#### 高橋座長

横須賀パーキングは、エコパーキングで結構有名である。

#### 小澤課長（事務局）

資料中の「横須賀パーキング」はパーキング現地で行い、出前授業は各学校で実施している。

#### 高橋座長

資料のご意見があれば2月末までに事務局にお願いします。  
では、事務局から事務連絡をお願いします。

#### 笠原主査（事務局）

事務連絡の前に内船構成員の方からご案内がある。

#### 内船構成員

博物館で来月から行う企画展示の「なつかしの道具展」のチラシをお配りした。昔を知る方と昔を知らない子どもたちが交流できる場になったらいいなど、人文担当の学芸員が準備をしている。色々な年代層の方にお越しいただけたらいいなど考えている。もう1点は、虫関係で今年試験的に行う行事がある。ホームページで載せているが、親子で昆虫に関して何かできないかと思い企画した。ちょうど今博物館で三浦半島の昆虫100種を選定したので、これを普及しようとカルタ遊びを通じて100種覚えてもらおうと企画している。知り合いで虫好きな方がいらしたらご紹介いただきたい。

#### 野崎構成員

カルタで遊ぼうは、対象年齢はあるか。



## 内船構成員

一応子ども主体で親御さんと来ていただければいいなと思っている。もし大人の方だけでしたらオブザーバーとして参加いただければと思う。

## 小澤課長（事務局）

今年度最後の会議ということでご挨拶させていただきます。

1年間、お忙しい中ありがとうございました。皆さん貴重なご意見や情報をいただきましてありがとうございました。また、引き続きお願い致します。相互交流を生かした人材育成講座を進めてまいりましたが、過去3年間の実績を元に今年は進めさせていただきました。8月は教職員向けの田んぼの自然観察会、多数の先生方にご参加いただきました。また環境教育指導者の方もご参加いただきありがとうございました。引き続き教育研究所にお願いして進めていきたいと思えます。10月に環境審議会委員の神奈川大学の松本先生にお越しいただき、「行動につなげる環境教育」というテーマでご講演していただきました。地球温暖化関係のアンケートで調査し、市民にどうつながっていくかという話でしたが、自然環境団体の方にお越しいただき情報交換会を行いました。また、日産自動車追浜工場では工場内の取組を紹介いただき、こちらも市民団体の方や環境教育指導者の方と交流を図っていただき大変お世話になりました。お陰さまでイベントも粛々と進めてまいりました。引き続きご協力をお願い致します。また来年度も引き続き貴重なご意見をいただき、マスタープランの見直しもありますのでよろしくお願い致します。

## 笠原主査（事務局）

2点、連絡事項があります。

1点目、第17回目の会議は5月を予定している。詳細の日程調整は後日改めて連絡を行うのでよろしくお願い致します。

2点目は現在「よこすかECO通信 第16号」を作成中である。近日中に内容の確認のお願いを送りますのでよろしくお願い致します。16号は3月の第2週に発行の予定。以上、事務局からの連絡事項です。

## 高橋座長

遅くまでご苦労さまでした。これで本日の会議を終了致します。